振津隆行教授　略歴・業績目録

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金沢大学人間社会研究域法学系 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/41124

振津隆行教授　略歴・業績目録

【経　歴】

氏　　名　振 津　隆 行（ふりつ　たかゆき）

生年月日　1949（昭和24）年11月17日、大阪府大阪市に生まれる

【学　歴】

1973（昭和48）年３月　関西大学法学部卒業

1973（昭和48）年４月　関西大学大学院法学研究科公法学専攻修士課程入学

1975（昭和50）年３月　同上修了（法学修士）

1975（昭和50）年４月　関西大学大学院法学研究科公法学専攻博士課程入学

1978（昭和53）年３月　同上単位取得満期退学

【職　歴】

1979（昭和54）年４月　関西大学法学部非常勤講師（外書講読担当）
大阪経済法科大学法学部非常勤講師（演習Ⅰ・演習Ⅱ担当）（1980年３月まで）

1980（昭和55）年４月　小樽商科大学商学部講師（経営法学コース・経済刑法担当）に就任

1981（昭和56）年10月　小樽商科大学商学部助教授（同上）に昇任

1984（昭和59）年４月　金沢大学法学部助教授に配置換え（刑法総論・各論等担当）

1984（昭和59）年４月　福井大学教育学部非常勤講師（刑法担当）（1985年３月まで）

1986（昭和61）年４月　福井大学教育学部非常勤講師（刑法担当）（1987年３月まで）

1988（昭和63）年４月　福井大学教育学部非常勤講師（刑法担当）（1989年３月まで）

1989（平成元）年９月　金沢大学法学部教授（同上）に昇任

1990（平成２）年４月　福井大学教育学部非常勤講師（刑法担当）（1991年３月まで）

1991（平成３）年４月　高岡法科大学非常勤講師（刑法Ⅱ担当）（同年９月15日まで）

1992（平成４）年４月　高岡法科大学非常勤講師（刑法Ⅱ担当）（同年９月20日まで）

1992（平成４）年11月　大学院設置審査判定　金沢大学大学院社会環境科学研究科地域社会環境学専攻博士課程教授（犯罪統制論、犯罪統制論演習担当）㊟

2002（平成14）年　４月１日からドイツ連邦共和国ヴュルツブルク大学法学部客員教授として招聘される（同年10月３日まで）

2004（平成16）年４月　金沢大学大学院法務研究科教授に配置換え（刑法Ⅰ等担当）
金沢大学法学部教授に併任

【学　位】

1998（平成10）年３月　博士（法学）関西大学（博第二一八号）

【所属学会】

日本刑法学会、日本被害者学会

【著書論文等一覧】

著書（単著）

刑事不法論の研究　成文堂（1996年８月）

刑事不法論の展開　成文堂（2004年３月）

抽象的危険犯の研究　成文堂（2007年12月）

過失犯における主観的正当化要素の理論　成文堂（2012年１月）

著書（共著）

教材刑法判例　北海道大学図書刊行会（1983年８月）

現代法講義刑法総論　青林書院（1993年４月）

現代法講義刑法総論〔改訂版〕　青林書院（1997年４月）

現代法講義刑法各論　青林書院（1998年５月）

現代法講義刑法各論〔補正版〕　青林書院（2002年４月）

【論文・判例研究・文献紹介等】

ゲオルク・K・シュトルップ「社会治療施設の設備と運営に関する若干の本質的要素」（紹介）　立命館法学第115号（1975年１月）

不法における結果無価値と行為無価値（一）――違法とその阻却に関する一考察――　関西大学法学論集第26巻第1号（1976年４月）

不法における結果無価値と行為無価値（二）・完　――違法とその阻却に関する一考察――　関西大学法学論集第26巻第２号（1976年６月）

いわゆる公訴権濫用の主張が排斥された事例――チッソ水俣病補償請求関連傷害事件第一審判決（判例研究）　同志社法学第141号（1976年７月）

カール・ラックナー「刑法典第一三条――立法者の失敗か」（紹介）　龍谷法学第９巻第３・４号（1977年３月）

電車往来危険罪が成立するとされた事例（判例研究）　法学ジャーナル第19号関院（1977年３月）

エルゼ・コフカ「堕胎法の改正について」（紹介）　立命館法学第138号（1978年10月）

自転車の無断借用につき不法領得の意思がないとして窃盗罪の成立が否定され

た事例（判例研究）　同志社法学第154号（1978年11月）

独刑法典第三一五条ｃの規範目的について――BGHの一判決を契機として――（判例研究）　法学ジャーナル第24号関院（1978年12月）

輓近午睡考（随筆）「梁山泊のひとびと・泉ハウス・刑法読書会二〇周年記念文集」　成文堂（1978年12月）

クリースの「客観的可能性」の概念とその若干の適用について――危険概念理解のための予備的一考察――　刑法雑誌第22巻第３・４号（1979年２月）

ハンス・ヨアヒム・ヒルシュ「攻撃の違法性という正当防衛の前提」（紹介）　甲南法学第19巻第２・３・４合併号（1979年３月）

刑法における危険概念――危険概念の本質について――　刑法雑誌第24巻第２号（1981年６月）

フォルカー・クライ「財物の防衛の際における正当防衛の制限について」（紹介）　商学討究第32巻第１号（1981年10月）

クラウス・ロクシン「正当防衛権の『社会倫理的制限』――ある決算の試み――」（紹介）　商学討究第32巻第３号（1982年１月）

クリスチアン・シェーネボルン「正当防衛挑発の際の正当化の制限の中心思想について」（紹介）　警察研究第54巻第１号（1983年１月）

オーストリア刑法学研究序説（１）――オーストリアにおける犯罪論の展開について――　商学討究第34巻第２号（1983年10月）

放火罪と危険概念　法学セミナー第346号（1983年11月）

規範的構成要件要素の認識（判例研究）　別冊ジュリストNo.82「刑法判例百選Ⅰ総論（第二版）」（1984年３月）

オーストリア刑法学研究序説（２）――オーストリアにおける犯罪論の展開について――　商学討究第34巻第４号（1984年３月）

不作為犯と実行行為　法学セミナー第360号（1984年12月）

ガーブリエール・ヴォルフスラスト「病院の精神医学的治療中の自殺に対する責任について」（紹介）　警察研究第56巻第２号（1985年２月）

オーストリアにおける現代的犯罪論の展開　金沢法学第28巻第１号（1985年11月）

アルミン・カウフマン「法義務の根拠づけと構成要件の制限」（紹介）

龍谷法学第19巻第１号（1986年６月）

アルツール・カウフマン「危険増加説に対する批判点」（紹介）

立命館法学第187号（1986年12月）

リレー連載　刑法総論　被害者の承諾（上）　法学セミナー389号（1987年５月）

リレー連載　刑法総論　被害者の承諾（下）　法学セミナー390号（1987年６月）

フリードリッヒ・ノヴァコフスキー「正当化事由の主観的行為面について」（紹介）

金沢法学第30巻第１号（1987年12月）

空手の練習と社会的相当行為（判例研究）

判例セレクト'87　月刊法学教室No.89別冊付録（1988年２月）

正当防衛における「防衛意思」の問題点（一）

金沢法学第30巻第２号（1988年３月）

同意殺人・同意傷害――殺人罪・傷害罪と同意の法的効果およびその有効性の限界

芝原邦爾編「別冊法学教室　刑法の基本判例　基本判例シリーズ　３」（1988年４月）

被害者の承諾　芝原邦爾・堀内捷三・町野朔・西田典之編

「刑法理論の現代的展開　総論Ⅰ」日本評論社（1988年４月）

強盗罪と恐喝罪の限界（判例研究）

判例セレクト'88　月刊法学教室No.101別冊付録（1989年２月）

フリッツ・ロース「主観的正当化要素の内容について」（紹介）

金沢法学第31巻第１号（1989年３月）

「人と胎児」、「殺人の未必の故意」、「偽装心中と殺人」、「傷害の概念」、「傷害の故意」、「同時犯の特例」、「暴行の概念」、「ダンプカーは兇器か」、「迎撃目的」、「継続犯か」（判例研究）

香川達夫編「判例マニュアル刑法Ⅱ各論」三省堂（1989年６月）

逮捕勾留中の犯人の身分わりを出頭させる行為と犯人隠避罪の成否（判例研究）

判例セレクト'89　法学教室№113別冊付録（1990年２月）

共犯関係からの離脱（判例研究）

「平成元年度重要判例解説」ジュリスト№957（1990年６月）

第43条～第44条、第108条～第118条（判例コンメンタール）

内田文昭・小野坂弘・山火正則編「逐条判例刑法」法学書院（1990年７月）

山中事件「予想できた妥当な判断」　中日新聞７月27日夕刊（1990年７月）

正当防衛における「防衛意思」の問題点（二）

金沢法学第33巻第１・２合併号（1991年３月）

避難行為の相当性（判例研究）

別冊ジュリスト№111「刑法判例百選Ⅰ総論（第三版）」（1991年４月）

ペーター・J・シック「生殖工学と刑法　オーストリアの状況」（翻訳）

ギュンター／ケラー編著中義勝・山中敬一監訳

「生殖医学と人類遺伝学――刑法によって制限すべきか？」

成文堂（1991年７月）

不能犯――具体的危険説と客観的危険説との対抗――

中義勝先生古稀祝賀「刑法理論の探求」成文堂（1992年３月）

中先生と私（随筆）　「中義勝先生送別文集」関西大学法学会（1992年４月）

自殺関与罪と殺人罪の限界（判例研究）

別冊ジュリスト№117「刑法判例百選Ⅱ各論（第三版）」（1992年４月）

「第三十二章　脅迫ノ罪」、「第三十三章　略取及ヒ誘拐ノ罪」、「第三十四章　名誉ニ対スル罪」、「第三十五章　信用及ヒ業務ニ対スル罪」（コンメンタール）

大谷實編「要説コンメンタール　刑法各論〔罪〕」三省堂（1992年６月）

正当防衛における「防衛意思」の問題点（三）

金沢法学第35巻第１・２合併号（1993年３月）

刑法における因果関係の意義――条件説と相当因果関係説

阿部純二ほか編「刑法基本講座　第二巻　構成要件論」法学書院（1994年10月）

正当防衛における「防衛意思」の問題点（四）

金沢法学第37巻第1号（1995年１月）

主観的不法要素全面的否認説の検討

「中山研一先生古稀祝賀論文集　第三巻　刑法の理論」成文堂（1997年２月）

避難行為の相当性（判例研究）

別冊ジュリストNo.142「刑法判例百選Ⅰ総論（第四版）」（1997年４月）

自殺関与罪と殺人罪の限界（判例研究）

別冊ジュリストNo.143「刑法判例百選Ⅱ各論（第四版）」（1997年５月）

泉ハウスと我が青春（随筆）

「泉正夫先生と『泉ハウス』御遺稿と追悼文集」成文堂（1998年12月）

クラウス・ロクシン「未遂の処罰根拠について」（紹介）

金沢法学第41巻第１号（1998年12月）

「陸路の閉塞の意義」ほか5編（判例研究）

曽根威彦・日高義博編「基本判例　６　刑法各論」法学書院（1999年４月）

最近の判例の動向と客観的帰属論

「現代刑事法――その理論と実務――」第１巻第４号　現代法律出版（1999年８月）

名誉毀損罪と事実の真実性の錯誤

「転換期の刑事法学　井戸田侃先生古稀祝賀論文集」現代人文社（1999年10月）

主観的違法要素

西田典之・山口 厚編「刑法の争点〔第３版〕」ジュリスト増刊（2000年11月）

ハンス・ヨハヒム・ヒルシュの危険概念（危険犯論）に関する二論文の紹介（紹介）

金沢法学第43巻第２号（2000年12月）

危殆犯論――ツィーシャンクの危険犯に関する四分説を中心に――

金沢法学第44巻第１号（2001年11月）

「空手の練習と社会的相当行為」ほか２編（判例研究）

「判例セレクト'86～'00」有斐閣（2002年３月）

不作為による放火（判例研究）

別冊ジュリストNo.166「刑法判例百選Ⅰ総論（第五版）」（2003年４月）

監禁罪の保護法益（判例研究）

別冊ジュリストNo.167「刑法判例百選Ⅱ各論〔第五版〕」（2003年４月）

いわゆる「防衛意思」に関する二、三の問題

「激動期の刑事法学――能勢弘之先生追悼論集」信山社（2003年８月）

能勢弘之先生を偲んで――権威に媚びず、阿らず、自分の頭で考える――（随筆）　「激動期の刑事法学――能勢弘之先生追悼論集」信山社（2003年８月）

「一般的違法性」ほか22項目　「コンサイス法律学用語辞典」三省堂（2003年12月）

繁田實造先生の事ども（随筆）

「人に盡して倦まず――繁田實造さん追悼文集――」（非売品）（2004年10月）

未遂の処罰根拠――未遂犯は「具体的危険犯か」

吉田敏雄・宮澤節生・丸山 治編

「罪と罰・非常にして人間的なるもの　小暮得雄先生古稀記念文集」

信山社（2005年８月）

「陸路の閉塞の意義」ほか５編（判例研究）

曽根威彦・日高義博編「基本判例　６　刑法各論〔第二版〕」（2006年７月）

主観的違法要素　西田典之・山口 厚・佐伯仁志編

「刑法の争点」新・法律学の争点シリーズ　２　ジュリスト増刊（2007年10月）

抽象的危険犯の考察　金沢法学第50巻第１号（2007年11月）

久留米駅事件（判例研究）

別冊ジュリストNo.189「刑法判例百選Ⅰ総論〔第6版〕」（2008年２月）

凶器の意義（判例研究）

別冊ジュリストNo.190「刑法判例百選Ⅱ各論〔第6版〕」（2008年３月）

ハンス・ヨハヒム・ヒルシュ「危険犯の体系性と限界」（翻訳）

金沢法学第51巻第１号（2008年11月）

過失犯における主観的正当化要素について（１）

金沢法学第52巻第１号（2009年11月）

ハンス・ヨアヒム・ヒルシュ「過失犯の不法について」（翻訳）

金沢法学第52巻第２号（2010年３月）

ミヒャエル・パヴリク「『最近一世代（30年）の最も重要なドグマーティッシュな前進?』――刑法における不法と責任との間の区別についての論評」（紹介）

金沢法学第52巻第２号（2010年３月）

超法規的緊急避難とライヒ裁判所判決について

金沢法学第53巻第２号（2011年３月）

過失犯における主観的正当化要素について（２）

金沢法学第54巻第１号（2011年７月）

過失犯における主観的正当化要素について（３）・完

金沢法学第54巻第２号（2012年２月）

中山先生との邂逅（随筆）

「定刻主義者逝く――中山研一先生を偲ぶ――」成文堂（2012年２月）

ヘーゲルとヘーゲリアナーの犯罪概念　金沢法学第55巻第２号（2013年３月）

認識なき正当防衛について　金沢法学第56巻第１号（2013年７月）

認識なき正当防衛小考　金沢法学第57巻第１号（2014年７月）

フォイエルバッハの不能犯論　金沢法学第57巻第１号（2014年７月）

ミッターマイヤーの不能犯論　金沢法学第57巻第１号（2014年７月）

被害軽微の場合の可罰的違法性――マジックホン事件（判例研究）

別冊ジュリストNo.220「刑法判例百選Ⅰ総論〔第７版〕」（2014年８月）

【学会報告等】

1976年７月14日、日本刑法学会関西部会において、「不法における結果無価値と行為無価値」の論題にて報告（於・大阪市立大学）

1980年10月10日、日本刑法学会第57回大会において、「刑法における危険概念」の論題にて報告（於・新潟大学）

2005年５月26日、テレビ金沢に、専門家の意見として出演する

その他、多数回新聞・テレビ等で専門家としての意見が採り上げられる